

令和5年3月定例記者会見及び2月月例記者会見

3月定例記者会見

【説明】

〔3月議会案件〕

市長 議案等の提出案件は24件で、そのうち専決処分報告が2件、予算が当初予算8件と補正予算4件の合計12件、条例が7件、法定協議会の設置が1件、人事が2件となっています。

補正予算については、国の改正に伴い必要な措置を講じるものが中心です。法定協議会の設置は、奈良県広域水道企業団の設立準備協議会の設置に関する協議となります。人事案件につきましては、公平委員会委員の選任と政治倫理審査会委員の委嘱です。

令和5年度予算は、一般会計予算額としては414億5,000万円で前年度比6.3%増です。今年度は、社会保障費の他に、清掃センターの基幹的な設備改良工事に関するものが増加しております。

今回目玉となる新規事業等について説明します。

まず、重層的支援体制の整備では、あらゆる困り事に対して定期的に協議を行い、コーディネートする職員を配属し、しっかりと個別に対応できるような体制を作っていきます。将来的にはアンケート調査を実施し、行政だけではなく自治会、民生児童委員、地域包括センター等と連携し、重層的な支援をしていきたいと考えています。また、令和6年度に厚生労働省から依頼されている地域共生社会推進全国サミットの生駒市開催を予定しており、その準備に係る予算を計上しております。

次に地域防災体制の充実では、今まで風水害の被害ではいろんな訓練を積んだり実際に台風が来たりして経験値を積んでいますが、地震に関しては実際の経験が少なく、東南海トラフや生駒山の少し西に比較的発生可能性が高いと言われている断層帯がありますので、令和5年度は災害対策本部の指令室化を始め体制の整備など、大規模地震への備えを中心に組み組みたいと考えています。

次に子ども子育て支援の充実として、子ども医療費助成の対象を15歳から18歳までに引き上げるとともに未就学児の自己負担金をなくし完全な無償化とします。この無償化については、県内12市の中では生駒市が初めてです。また、保護者の負担軽減のため市立保育所等に午睡用簡易ベッドを導入、市立幼稚園では預かり保育の時間を延長します。

学校教育については、発達障がいや不登校の児童に対して多様な学びの機会と学びやすい環境作りを目指し、自校式通級指導教室を市内全校に拡大します。また、生駒南小学校・中学校の整備事業として、単なる義務教育の学校のようなものではなく地域のコミュニティセンターや福祉施設と連動して未来の教育を先取りするようなものを具体化したいと考えています。

次に生涯学習の推進として、人生100年時代に向けて豊かで充実したセカンドライフの実現に向け、終活等も含め知識や気づきを得るための啓発講座を行います。また、新たな地域クラブ活動推進事業も始めます。国・県の方針がなかなか定まらない中、生駒市では、一つの学校だけではクラブが成立しない複数の学校を合わせて地域クラブを作り、総合型スポーツクラブ等に指導をお願いすることから始め、ブラスバンド等の文化芸術系のクラブにも拡大していきたいと考えています。

その他、奈良先端科学技術大学院大学と連携してデジタル、サイエンスといった観点で子どもの才能を最大限に伸ばしていくクラブも検討していきたいと考えています。

生駒南口周辺では、都市空間再編事業を継続するとともに、生駒駅前から宝山寺までの参道の景観を守るために具体的な制度や協力体制を整備するための予算を計上します。また、老朽化対策としてマンション管理適正化計画を策定するとともに、5年ぶりに市内の空き家実態を調査します。

また、マルシェを企画運営する人を育成する連続講座を実践とともに開催し、地域に滞在できる場所を増やしていきます。さらに、協創対話窓口の活性化では、生駒市の課題に対応するために有用な技術サービスを持っている、公民連携できる事業者とのマッチングを推進します。

産業振興では、魅力ある個店創出事業や観光プロモーション事業にも取り組んでいきます。

【 質疑応答 】

記者 市長選挙がある場合は骨格予算にするケースが多いが、今回は通常の予算であると思いますがどう考えていますか。

市長 前回の選挙の時と同じで、現在必要なものを一日も早くきちんと提供するため予算計上するというのが基本的な考え方です。選挙のために予算を骨格にしたり、盛り付けたりすることに対して合理性は感じていませんし、適正な予算であると考えています。

記者 清掃センター基幹的設備改良工事の内容を教えてください。

市長 施設が老朽化していますので、建て替えではなく抜本的な大規模改修を行います。

記者 生駒南小学校と中学校は義務教育学校にするのですか。

市長 義務教育を目指すということは明確には聞いていません。

記者 新年度予算の編成に当たって、徹底した歳出削減を行うとともに予算の重点化効率化を図ってメリハリのある予算編成を行ったということですが、今回の予算の中で特に市長の思いがあるところは何ですか。

市長 医療費の無償化だけではなく、地域の新しい地域クラブとしてスポーツ・芸術だけではなく、サイエンス等も含め、子どもたちの得意を伸ばしていきたいと思います。学校がどうあるべきで、地域で子どもが学ぶ体制をどのように作っていくかというような部分を考えて取組の一つが南小学校・中学校の「未来の学校」です。

学研高山地区第2工区や生駒駅南口・南生駒駅の拠点形成のところはこれから動きが出てきますのでしっかりと次の50年の土台作りとして行っていきたいと考えています。

重層的支援では、市内全世帯にアンケート調査を行うなど、なるべく多くの意見を聞いて本当にいろんな困り事をきちんと、行政と市民、民生児童委員、自治会が受け皿となって対応していくようなまちにしていくのが究極の形だと思っています。

これら3つの取組の土台にあるのがデジタル化推進ということになります。

2. 2月月例記者会見

【 説明 】

〔奈良労働局との雇用対策協定の締結〕

市長 今回、奈良労働局と雇用対策協定を締結します。生駒市では女性の就業率や若年者の雇用につ

いての問題は深刻であると感じております。奈良労働局では多様な雇用支援に取り組んでおられ、生駒市の課題解決に協力頂けるということで協定を締結したものです。具体的な取り組みとして、1つ目は、女性や子育て世帯、マルチワーク等の多様な働き方を希望する市民等と地元企業のマッチングです。2つ目は、地元企業の従業員教育や学び直しへの支援やDX分野に関する情報提供などの支援です。3つ目は、新卒者等の若年者に対する就労支援で、4つ目は、生駒市の産業政策の推進に必要なデータを労働局から提供して頂き、生駒市の産業政策等に役立てるものです。生駒市は単なるベッドタウンから卒業するために、地元企業が新たな挑戦をしながら発展することで、地元で雇用が生まれ、住みやすいまちに加え、働きやすい住宅都市を目指してため、奈良労働局にも支援を頂きたいと考えています。

労働局長 まず、今回生駒市長を始め関係者のご努力でこの度の雇用対策協定が締結できましたことに御礼申し上げます。市が提唱されておられる、「自分らしく輝けるステージ生駒」の実現に向けまして、生駒市と奈良労働局が更に強く連携をしていきたいと思っております。生駒市の発信力等と労働局の持つネットワークや支援メニューを市民の皆さんにしっかり浸透させることで、生駒市の発展に協力できるものと考えております。

【 質疑応答 】

記者 こういう形の協定は他でもありますか。

労働局長 県内では、奈良県、吉野町、橿原市と締結しています。

記者 協定の内容は同じですか。

労働局長 奈良労働局では女性の活躍や時代にマッチした取り組みをしていますが、生駒市の課題や意向を踏まえて、特に多様な働き方について重点的に取り組んでいくという意味では最初の協定だというふうに理解しています。

市長 生駒市では、女性の就業支援が課題で、女性の働き方やマルチワークを支援いただくということと、地元の企業の応援ということで、地元事業者が新しい挑戦をするときに必要な人材の確保や従業員のリスクリングというようなことを応援を頂くことが独自の協定であると考えています。

記者 今回の協定は奈良労働局からの働きかけからだと思っておりますが、具体的な取り組みはどのようなものがありますか。

労働局長 今までもスキルを高めるセミナー等は行っていますが、今回この協定を結ぶことで、市と定期的で継続的な協議の場を設けられるということで、今後そういう様々なスキルを得るためのセミナーなどが市内で継続的に効果的に展開できると考えています。

市長 今までも北田原の学研生駒テクノエリアを中心に事業者の採用機会として合同就職面接会やセミナーの開催に協力をしていただいています。事業者からの相談や人材確保や育成に対しても一対一だけではなくマルチに対応することでより効果的が高まると思います。

【エアークローゼットと連携した取組を実施】

※オンラインでエアークローゼット天沼代表取締役社長兼 CEO が出席

市長 **㈱**エアークローゼットと連携した取組を実施します。今回の取組の内容は、会社の特徴を生かして、3月6日に生駒小学校6年生に洋服を取り巻く環境問題の現状や取組を紹介してもらいます。その後実際に使用していない服を持参してもらい、再生して4月2日イオンモール登美ヶ丘で配布を行う

という、服の循環体験イベントを実施してもらいます。話を聞くだけではなく実際の活動で課題を知ってもらうことが生駒市らしい工夫であり、全国で初めての取組です。

社長 今回自治体と初めてこういう取組をさせていただきます。当社は約 10 年前に創業し、女性向けの月額制のファッションレンタルというリユースを通してサステナビリティを中心に活動している企業で衣服廃棄ゼロということを実現しております。ビジョンとしては、全ての人の時間の価値を高めたいという思いを込めています。

昨年末には日本サービス大賞内閣総理大臣賞を、創業 10 年未満のスタートアップ企業としては初受賞させていただきました。岸田総理からもサステナビリティへの取り組みに加えてファッションが、何か我慢して、SDGs に取り組んでいくのではなくて、わくわくして取り組んでいけるこのビジネスモデルが素晴らしいという評価をいただきました。

現在ファッションアパレル業界では特に廃棄されることに対して大きく問題視されておりまして、関係社の資料では 1 日に大型トラック約 330 台分の洋服が焼却等されている健全ではない状況で、今後アパレル業界では廃棄量の削減に加え、生産量の最適化それから適切なリユース・リサイクルが求められていくと考えています。

社会全体で未来に向けて取り組んでいく必要がある取組を、その未来で主役になっていく子供たちが、なぜサステナビリティが大切なのか、実体験をして考えるきっかけができるような取組になったらと考えています。すなわち、小学生の子どもたちに我々からサステナビリティについてお伝えし、これに加えて、家庭でもコミュニケーションをしていただく。その機会を作った上で、実際にその洋服が皆様のご協力を通して次に使われる方に渡っていくこの実体験をしていただくことを体験することに意義がある活動だと感じています。

市長 私も以前環境省におりまして、2004 年頃このリユースの取組をしていました。当時の取組を一步進めて、このようにわくわく感を持って環境問題が自然と考えられるのは大変ありがたいと思います。

【 質疑応答 】

記者 実際には事前に服の回収を生徒に呼びかけし、3 月 6 日に回収し、4 月 2 日に配布するという流れになりますが、これは通常のサービスの一環なのですか。

市長 今回は子供たちに服のリユースに当事者として関わることを体験してもらうために、特別な流れを作っていました。

社長 社の得意とする部分を提供させていただくというような観点で捉えていただければと思います。生駒市小学校で 3 月 6 日の月曜日に授業を行います。それまでに生徒に自宅で両親に不要になった洋服がないかという話をしてもらい、その洋服を授業当日に回収します。回収した洋服は当社の検品機能ですとか、メンテナンスやクリーニングの機能を活用してメンテナンス最終検品をした上で、当社から発送し、4 月 2 日にイオンモールでその洋服が生まれ変わって、来場者が着てみたいと思えるようなイベントにしたいです。

記者 その直した服はそのまま生徒に返すのですか。

市長 イオンモールに来られた方に無料で配布することになります。

記者 この取組は自治体初めてですか。

市長 はいそうです。

記者 回収した服で、市場で引き取り手がない物はどうなりますか。

社長 廃棄せずリサイクル事業者へ渡し、リサイクルしてもらいます。

記者 今回の事業を通して子供たちに一番学んでもらいたいことはなんですか。

社長 子供たちは、ほとんど洋服は買って着るだけのものという認識しかないと思われますので、廃棄されるという実情をまず知っていただくことです。そしてその知識を得て上で、自宅で両親とコミュニケーションして考えるきっかけを持っていただくこと、子供たちに実際に循環するっていうのは素敵なことだなんていう実体験をしてもらうことです。

【まちづくり推進組織エリアプラットフォーム発足／約 500 人の応募者の中から採用予定者 19 人を決定】

市長 2月28日に生駒駅南口周辺でエリアプラットフォームというものを立ち上げて、3つのプロジェクトを行います。具体的には、商店街にベンチを置き滞留空間づくり、街中を歩く「そぞろ歩き」の実施、対話セッションを行います。参加者は、地元の商店街や治会、生駒商工会議所、金融機関で、その他、奈良先端科学技術大学院大学がデジタルを活用したまちづくりということで入っています。

また、社会人経験者の採用では、500名近くの応募があり19名を採用するという結果報告です。

【 質疑応答 】

なし

(その他の質問)

(コロナウイルス対応)

記者 コロナウイルス対応で、国では3月にはマスクを外すということが言われていますが、卒業式の時期でもあり、市内の学校に対して指針などを出す予定はありますか。

市長 国の方針は共有しますので、国と違った方針を出すことはありませんが、具体的なケースが各学校等から聞かれると思いますので、丁寧に回答はしていきたいと考えています。基本的には卒業式、入学式はマスクなしでいいと考えています。

記者 給食はどうされていますか。

市長 現状では前を向いて食べています。マスクは、基本的には外せるところはもう外していけばいいと思いますが、やはり一番リスクが高いのは食事のときですので、向かい合って食べても食べ終わったらマスクつけて喋るっていうのが、なかなか子どもたち特に低学年では徹底できないところもありますので、食事の時間帯においては、現状どおりが一定仕方ないと考えています。

(了)